

介護支援ボランティア制度の対象範囲拡大について(案)

1. 対象範囲拡大(案)

平成26年度から、ポイント付与の対象とするボランティア活動の範囲について、受入施設を短期入所生活介護事業所、軽費老人ホーム・ケアハウス等にも拡大するほか、自治会等が行う在宅高齢者に対する家事援助、見守りなどの生活支援活動にも拡大する。

- 1 受入施設の拡大
 - 介護保険サービス事業所
 - 短期入所生活介護事業所(5か所)、複合型サービス事業所(2か所)
 - 介護保険サービス事業所以外の高齢者施設
 - 軽費老人ホーム・ケアハウス(18か所)、養護老人ホーム(2か所)、有料老人ホーム(29か所)
- 2 町内自治会等が行う在宅高齢者に対する家事援助、見守りなどの生活支援活動への拡大
 - 単身世帯や高齢者のみの世帯の増加により、高齢者の在宅生活を維持するために生活支援活動の必要性が高まっている。
 - ※生活支援活動：家事援助、見守り、配食、会食、交流サロン等、高齢者が在宅生活を維持するため必要となる支援全般
 - ボランティアとその受入希望者との調整や、ポイントの付与を行う第三者(施設等における職員の役割)が必要であり、また、活動場所が個人宅となることから、活動の信頼性の確保が重要である。

- ⇒自治会等が主体となり継続して行う生活支援活動を、ポイント付与の対象として募集、登録し、活動に係る調整やポイントの付与等は、その団体の代表者が行うこととする。
- ※活動の登録要件
 - 町内自治会、NPOなど、活動の参加者が5人以上の営利を目的としない団体が行う生活支援活動であること。
 - 1年以上継続することが見込まれる活動であること。
 - ボランティアに実費相当分を超える賞金等を支払っていないこと。
 - おおむね1回当たり30分以上の活動であること。

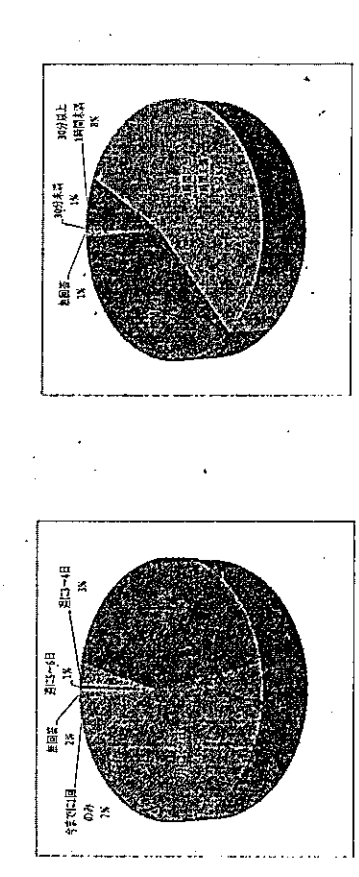
- ※ポイントの付与基準
 - 1活動あたり1ポイントとする。
- ただし、施設等におけるボランティア活動については、現行どおり。(30分～2時間：1ポイント、2時間～：2ポイント(上限/日：2ポイント))

- ☆検封事項
 - 町内自治会等が行っている生活支援活動の具体的内容を精査し、
 - 対象とする活動の範囲(活動内容や他の補助制度適用による限定など)
 - ポイント付与の管理方法(活動状況の確認帳票など)について検討(必要に応じてモデル実施を検討する。)

2. 対象範囲拡大の必要性

【制度の概要】
高齢者が特別養護老人ホーム等の介護保険サービス事業所でボランティア活動を行った場合に、介護保険料や介護保険サービス利用料などに充てることができるポイントが付与し、健康増進、介護予防の促進や社会参加活動などを支援するもので、平成25年7月に開始した。
【平成26年3月1日現在】

- 受入機関 214か所(通所介護88、グループホーム42他)
- 受入可能人数/日 806人(受入機関指定申請時の申告人数の合計)
- ボランティア登録者 947人
- 【登録ボランティア(380人)に対するアンケート調査の結果】(平成25年8月末実施)
- 回答者329人(回答率87%)のうち、活動している者182人の活動頻度等



急速に高齢者が増加する中、高齢者の社会参加を一層推進することを通じて、元気な高齢者が地域活動の担い手として活躍するとともに、自らも住み慣れた地域での生活をできる限り長く続けていくことができる環境づくりが必要。

- 【平成24年度第2回当分科会における意見】
- 将来的には、在宅高齢者に対する支援活動を対象に加えるべき。
- 【登録ボランティア(380人)に対するアンケート調査の結果】(平成25年8月末実施)
- 回答者285人のうち(複数回答可)、
- 「受入機関を増やしてほしい」：96人、「対象となる活動分野を増やしてほしい」：61人

介護支援ボランティアの活動状況

～特別養護老人ホーム(花見川区)～

◎昨年7月から、介護支援ボランティア制度に登録し活動しているボランティアの方2名(いずれも花見川区在住の70歳代女性)から、活動状況を聴取。

Aさん

Q ボランティア活動を始めた時期、きっかけは？

A 活動を始めて今年で10年になる。社会福祉協議会を通じたボランティア募集の案内を見て、自分の健康維持に役立つと思い、活動することにした。

介護支援ボランティア制度については、施設から教えてもらい参加した。

Q 活動頻度、内容は？

A 週1回、10:30から15:30まで、軽度の入所者30名程度を対象に、傾聴、お茶出し、おしほりや食事の用意・片づけ、レクリエーションの補助を行っている。

Q これまでの取得ポイント数は？

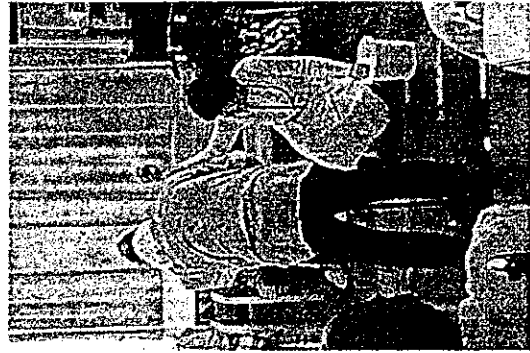
A 50ポイント以上取得している。

Q 心がけていることは？

A レクリエーションを補助する際は、一緒に喜んだり悔しがったりして、自分も参加している気持ちで行うようにしている。

Q 活動の効果は？

A 2歳児の保育ボランティアも行うっており、定期的に活動して刺激を受けることで、健康維持につながっている。また、入所者の千差万別な老いの有り様を目の当たりにすることで、老いのあり方について学ぶことができ、とても勉強になっている。



Bさん

Q ボランティア活動を始めた時期、きっかけは？

A 活動を始めて今年で10年になる。社会福祉協議会の傾聴講座を受講したことをきっかけに、自分の健康維持のため活動することにした。

介護支援ボランティア制度については、施設から教えてもらい参加した。

Q 活動頻度、内容は？

A 月2回、10:30から15:30まで、軽度の入所者30名程度を対象に、傾聴を行っている。

Q これまでの取得ポイント数は？

A 25ポイント取得している。

Q 心がけていることは？

A ボランティアには解決できない要望や不満を聴くことも少なくないため、初めは戸惑いを感じたが、真摯に耳を傾けるだけで、満足してもらえることが分かり、どんなことでも聞いてみるようにしている。

Q やりがいは？

A 時々怒鳴られたりもするが、継続して話しかけているうちに、笑ってくれたり、次の活動日を尋ねられるようになり、自分と話すのを楽しみにしていると感じられるのが嬉しい。

Q 長続きの秘訣は？

A 自分の努力ももちろん大切だが、ボランティアを受入れる施設の対応が温かかったから、これまで続けることができたと思う。

